

よやくらぶ・ビジョンフード

2014年
「えーとね... 来年から「よやくらぶ」という仕組みが始まるんですって」
「まち委員会にて」

2015年
「共同購入システムが大きく変更!」
「今まで...2週間ずつ注文... 今後は... 毎週注文して 翌週配達!」
「こんな風に変ります」

でも、こんな声も...
「注文しにくー!!」
「2週間分の注文?」
「注文」
「配達」
「生産者たちが用意!」
「2~3週間」
「さまざまなライフスタイル」
「組合員の高齢化」
「単身世帯」
「働く子育て世帯」
「ライフスタイルも変わって来たからね」
「組合員のライフスタイルも変わって来たからね」
「少しずつ便利な方々に変えて、たくさんの人たちが生活するようになってくるといいよね」

今までのシステムは
注文から配達まで、ゆとりをもって確かな品質の消費材を手に入れるためだったでしょ?

1965年 今までのシステム
「センター建設 スタート!」
「牛乳を配達!」
「自転車やバイクで」
「トラックで」
「班に配達」
「自分たち仕事!」
「専用のセンターから3~5回に分けてもまた来たよ」
「生産者の努力もあって、配達も注文のシステムも徐々に変わって来たのね」

2000年代
「便利~!!」
「戸別配達も広がる」
「常温品・冷凍 冷蔵品 青果物」
「トラック一台で配達できるように」
「便利~!!」

1987年 80年代中頃
「センターで集計・発注」
「コンピューターシステム導入」
「おバテ人か!」
「班でまとめて注文」
「OCR用紙で注文・集計」
「1999年」
「毎週注文・翌週配達に!」
「インターネット注文も」
「よやくらぶ」
「2015年」
「OCR用紙で注文・集計」
「注文が月1回から月2回に!」
「OCR用紙で注文・集計」

よやくらぶとは...
「登録しておけば各消費材に合わせたサイクルに合わせて毎回注文しなくても定期的に届くシステムです!」
「よやくらぶには、消費材ごとの予約の仕組みがあります」
「よやくらぶ」
「便利に、なるのね」
「でも! 生産者は大丈夫か?」
「え?!」

班別予約共同購入

生協設立当初、共同購入のシステムは月1回の「班別予約共同購入」であった。

このしくみのメリットは、出資・利用・運営という協同組合の基本をなすものであった。

①大量発注で仕入れを安くできる
②予約なので不要な在庫や倉庫が不要

③班単位なので配達効率が高い
④班が情報共有、議決の単位として機能

⑤生産者にとっては、生産管理がしやすい

地域の中でおおぜいの主体をつくり、具体的な社会改革をめざすにあたっては非常に機能的な制度で「計画購入」とも言われていたが、予約なのですぐに品物が手に入らない、班会議がめんどうなどのデメリットを感じる組合員もいた。

班から個への転換

個人が集まって「おおぜいの私」として連帯し、事業をすすめていたが、その活動の中心は在宅の「主婦」であった。社会のあり方やライフスタイルの変化とともに、共同購入の単位としても意思決定の単位と

